

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	柔道整復学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	柔道整復師の成り立ちについて理解する。骨損傷の各分類法とそれぞれの特徴を理解する。骨折の特徴的症狀を理解する。骨折に於ける合併症を理解する。			評価方法			
授業概要	骨折に関する総論教育である。			期末試験 100% 小テストを平常点として加減 （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	柔道整復概論 医学史						
第2週	人体に加わる力、損傷に関する身体の基礎的状态、各組織損傷損傷時に加わる力						
第3週	骨損傷の分類 その1						
第4週	骨損傷の分類 その2						
第5週	骨折の症状 その1						
第6週	骨折の症状 その2						
第7週	骨折の症状 その3						
第8週	骨折の合併症（併発症）その1						
第9週	骨折の合併症（併発症）その2						
第10週	骨折の合併症（続発症）その1						
第11週	骨折の合併症（続発症）その2						
第12週	骨折の合併症（後遺症）その1						
第13週	骨折の合併症（後遺症）その2						
第14週	練習問題						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	復習ならび小テスト対策学習						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	柔道整復学 I	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	小児ならび高齢者の骨折の形態・症状・治療法の違いを理解し筆記できる。 骨折の予後 治癒に影響を与える因子 骨折の治療法を理解し筆記できる。 上肢の脱臼の発生機序・症状・治療法・合併症を理解し筆記できる。			評価方法			
授業概要	骨折総論並びに上肢の脱臼各論教育である。			期末試験 100% 小テストを平常点として加減 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	小児骨折の特徴						
第2週	高齢者骨折の特徴						
第3週	骨折の癒合日数 骨折の治癒過程						
第4週	骨折の予後 骨折の治癒に影響を与える因子 骨折の治療法						
第5週	鎖骨の脱臼						
第6週	肩関節の脱臼その1						
第7週	肩関節の脱臼その2						
第8週	肘関節脱臼その1						
第9週	肘関節脱臼その2						
第10週	遠位橈尺関節脱臼 橈骨手根関節脱臼						
第11週	月状骨脱臼 周囲脱臼						
第12週	手根中手関節脱臼 第1中手指節関節脱臼						
第13週	第1指以外の中手指節関節脱臼 近位・遠位指節間関節脱臼						
第14週	練習問題						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	復習ならび小テスト対策学習						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	柔道整復学Ⅰ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	下肢の脱臼と軟部組織損傷の発生機序・症状・治療法・合併症を理解し筆記できる			評価方法			
授業概要	脱臼各論・下肢軟部組織損傷各論教育である。			期末試験 100% 小テストを平常点として加減 （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	股関節脱臼その1						
第2週	股関節脱臼その2						
第3週	膝蓋骨脱臼その1						
第4週	膝蓋骨脱臼その2						
第5週	膝関節脱臼						
第6週	足部の脱臼						
第7週	股関節部の軟部組織損傷(変形性関節症 拘縮 DDH他)						
第8週	大腿部の軟部組織損傷(肉離れ他) 膝関節部の軟部組織損傷その1(靭帯)						
第9週	膝関節部の軟部組織損傷その2(靭帯)						
第10週	膝関節部の軟部組織損傷その3(半月板他)						
第11週	膝関節部の軟部組織損傷その4(変形性関節症他) 下腿部の損傷その1						
第12週	下腿部の損傷その2(アキレス腱他)						
第13週	足部の軟部組織損傷						
第14週	練習問題						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	復習ならび小テスト対策学習						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	柔道整復実技VI	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験	整骨院を経営し施術業務従事中	担 当	谷口 禎二	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	上肢の軟部組織損傷の発生機序・症状・治療法・合併症を理解し筆記できる。			評価方法			
授業概要	上肢の軟部組織損傷について学習する。			期末試験 100% 小テストを平常点として加減 （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	腱板、上腕二頭筋、他肩部損傷(その1)						
第2週	腱板、上腕二頭筋、他肩部損傷(その2)						
第3週	インピンジメント症候群他肩部損傷(その1)						
第4週	インピンジメント症候群他肩部損傷(その2)						
第5週	関節周囲炎他肩部疾患(その1)						
第6週	関節周囲炎他肩部疾患(その2) 確認テスト						
第7週	肘関節損傷						
第8週	肘関節部の疾患						
第9週	前腕部損傷:コンパートメント症候群ほか						
第10週	上肢・手部神経損傷						
第11週	上肢・手部神経損傷						
第12週	手関節部、手指の損傷						
第13週	手関節部、手指の損傷						
第14週	手関節部、手指の損傷 手指の疾患						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	小テスト対策としての復習を行う。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	柔道整復学総合Ⅰ	授業時期	後期	授業時数	20
実務経験		担 当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	前期・中期で学習した内容を部位別で総合的に理解し発生機序・症状・治療法・合併症を筆記できる。			評価方法			
授業概要	骨折・脱臼・軟部組織損傷の基礎と臨床を総合的に学習する。			期末試験 100% 小テストを平常点として加減 （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	骨折の総論と臨床への適応(その1)						
第2週	骨折の総論と臨床への適応(その2)						
第3週	骨折の総論と臨床への適応(その3)						
第4週	脱臼の総論と臨床への適応(その1)						
第5週	脱臼の総論と臨床への適応(その2)						
第6週	脱臼の総論と臨床への適応(その3)						
第7週	軟部組織損傷の総論と臨床への適応(その1)						
第8週	軟部組織損傷の総論と臨床への適応(その2)						
第9週	軟部組織損傷の総論と臨床への適応(その3)						
第10週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	毎日の復習と小テストに向けて学習する。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	柔道整復学Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	平山 依里	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	関節の構造について理解する。現場で遭遇する脱臼の機序や処置、分類について詳しく学び理解し、記述出来る。			評価方法			
授業概要	柔道整復学の総論（関節の損傷、脱臼の定義、分類、症状）について学習する。			期末試験90% 小テスト(4回)10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP、液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	関節の損傷(捻挫・脱臼) A 関節の構造と機能 その1(P47～P48)						
第2週	関節の損傷(捻挫・脱臼) A 関節の構造と機能 その2(P49～P52)						
第3週	関節損傷の概説・分類・鑑別疾患(P52～P53)						
第4週	関節構成組織損傷 靭帯・関節包の損傷(P54～P56)						
第5週	関節周辺の筋・腱損傷(P56)						
第6週	関節軟骨損傷 (1)(P56～P57)						
第7週	関節軟骨損傷 (2)(P58)						
第8週	その他の関節構成組織損傷(P58～59)						
第9週	脱臼の定義 定義と概説・発生頻度(P59～P60)						
第10週	脱臼の分類 (1)(P60～P62)						
第11週	脱臼の分類 (2)(P62～P64)						
第12週	脱臼の症状 一般症状・固有症状(P64)						
第13週	脱臼の合併症 整復障害 経過と予後(P65～P66)						
第14週	総まとめ						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	3～4週間おきに、小テストを実行し、自宅学習する習慣を身につける。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	柔道整復学Ⅱ	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担 当	平山 依里	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	筋・腱・神経損傷の症状・分類・予後について理解し、記述出来る。			評価方法			
授業概要	柔道整復学の総論(筋・腱・神経の損傷)について学習する。			期末試験90% 小テスト(2回)10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実 施 結 果	
第1週	中期の授業内容の概要の説明						
第2週	筋の損傷 A 筋の構造と機能(P66～P68)						
第3週	筋の損傷 B 筋損傷の概説(P68～P69)						
第4週	筋損傷の分類 (1)(P70～P71)						
第5週	筋損傷の分類 (2) 治癒機序と予後(P72～P74)						
第6週	腱の損傷 腱の構造と機能 腱損傷概説(P74～P76)						
第7週	腱損傷の分類 (1)(P77)						
第8週	腱損傷の分類 (2) (P78)						
第9週	腱損傷の分類 (3) 腱損傷の治癒機序(P79)						
第10週	末梢神経の損傷 神経の構造と機能(P80～P81)						
第11週	神経損傷の分類 その1(P82)						
第12週	神経損傷の分類 その2(P83)						
第13週	神経損傷の症状と治癒機序 その1(P84)						
第14週	神経損傷の症状と治癒機序 その2(P85)						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	3～4週間おきに、小テストを実行し、自宅学習する習慣を身につける。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	柔道整復学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担 当	平山 依里	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	診察の仕方・固定の仕方・指導管理について詳しく学び、実践で活かせるように理解する。			評価方法			
授業概要	柔道整復学の総論（診察・固定法）について学習する。			期末試験90% 小テスト（3回）10% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	柔道整復学・理論編	使用器材	OHP、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実 施 結 果	
第1週	後期の授業内容の概要の説明						
第2週	診察（1）（P86～P87）						
第3週	診察（2）（P87～P88）						
第4週	診察（3）施術録と扱い（P89～P90）						
第5週	脱臼の整復法（P95～P96）						
第6週	軟部組織損傷の初期処置（P96～P98）						
第7週	固定法 その1（P98～P100）						
第8週	固定法 その2（P100～P102）						
第9週	固定法 その3（P102～P105）						
第10週	指導管理 その1（P135～P140）						
第11週	指導管理 その2（P141～P149）						
第12週	指導管理 その3 トレーニング方法（P143～P144）						
第13週	1年生総復習						
第14週	1年生総復習						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	3～4週間おきに、小テストを実行し、自宅学習する習慣を身につける。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	柔道整復実技Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整骨院にて11年の施術業務経験	担当	平山 依里	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	身体の構造について理解し、四肢の周径や計測が出来る。各関節の動きについて理解し、実行でき記述も出来る。			評価方法			
授業概要	柔道整復師に必要な基礎的用語、四肢の長さの測定の仕方や注意点などを学ぶ。			期末試験 90% 小テスト(1回)10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	東大式角度計・メジャー				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	年間講義の概要説明・人体の外形と部位						
第2週	身体の基本肢位、姿勢、重心線						
第3週	身体の位置を示す用語（基礎的用語）						
第4週	身体の断面（垂直線）に関する解剖学的記述用語						
第5週	身体の方角線と横断線（水平面）						
第6週	体表解剖（頭部、顔面部、頸部、胸部、腹部、背部、上肢部、下肢部）						
第7週	機能肢位（良肢位）、四肢長（長さの計測）						
第8週	四肢の周径、関節の周径、						
第9週	四肢長の計測実習						
第10週	関節の運動（頸部）						
第11週	関節の運動（胸腰部）						
第12週	関節の運動（上肢）						
第13週	関節の運動（下肢）						
第14週	関節の運動まとめ						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	復習の仕方の指導を行い、実行させる						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	柔道整復実技Ⅱ	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験	整骨院にて11年の施術業務経験	担 当	平山 依里	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	関節可動域測定の意義・必要性を理解し、実際に測定が出来る。			評価方法			
授業概要	臨床時に役立つ計測検査法（関節可動域）を実習をまじえながら学ぶ。			可動域の測定テスト 30% 期末試験 70% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学（理論編）	使用器材	東大式角度計				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	関節可動域の測定法（肩甲帯、肩関節） P465						
第2週	関節可動域の測定法（肘関節、前腕部、手関節） P465						
第3週	関節可動域の測定法（拇指、指関節） P466						
第4週	関節可動域の測定法（股関節、膝関節、足関節、足部） P467						
第5週	関節可動域の測定法（頸部、胸腰部） P468						
第6週	測定実習 その1						
第7週	測定実習 その2						
第8週	測定実習 その3						
第9週	測定実習 その4						
第10週	測定実習 その5						
第11週	関節可動域の測定法 テスト						
第12週	関節可動域の測定法 テスト						
第13週	関節可動域の測定法 テスト						
第14週	関節可動域の測定法 テスト						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	角度計の貸出を行い、復習させる						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	柔道整復実技Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整骨院にて11年の施術業務経験	担当	平山 依里	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	後療法の分類、効果、禁忌、適応などについて、理解し、記述出来る。			評価方法			
授業概要	臨床時で扱う後療法・指導管理を実習をまじえながら学ぶ。			期末試験 100 % (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学（理論編）	使用器材	東大式角度計				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	後療法 1. 手技療法 その1 P105～P106						
第2週	後療法 1. 手技療法 その2 P106～P107						
第3週	後療法 1. 手技療法 その3 P107～P108						
第4週	後療法 2. 運動療法 その1 P108～P109						
第5週	後療法 2. 運動療法 その2 P110～P111						
第6週	後療法 2. 運動療法 その2 P112						
第7週	後療法 3. 物理療法 その1 P113～P116						
第8週	後療法 3. 物理療法 その2 P117～P121						
第9週	後療法 3. 物理療法 その3 P122～P125						
第10週	後療法 3. 物理療法 その4 P126～P129						
第11週	後療法 3. 物理療法 その4 P130～P132						
第12週	後療法 3. 物理療法 その4 P133～P135						
第13週	後療法 3. 物理療法 物理療法体験						
第14週	後療法 まとめ						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	復習の仕方の指導を行い、実行させる						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	柔道整復学Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	平山 依里	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	上肢の骨損傷、軟部組織損傷に関連する骨・靭帯・筋について理解し、記述できる			評価方法			
授業概要	上肢の骨損傷、軟部組織損傷に関連する骨・靭帯・筋について学習する。			期末試験 90% 小テスト 10% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	上肢体の構成組織並び運動・関連疾患(その1)						
第2週	上肢体の構成組織並び運動・関連疾患(その2)						
第3週	上肢体の構成組織並び運動・関連疾患(その3)						
第4週	上肢体の構成組織並び運動・関連疾患(その4)						
第5週	上肢体の構成組織並び運動・関連疾患(その5)						
第6週	肘関節を構成する骨・靭帯・筋と関連疾患(その1)						
第7週	肘関節を構成する骨・靭帯・筋と関連疾患(その2)						
第8週	肘関節を構成する骨・靭帯・筋と関連疾患(その3)						
第9週	肘関節を構成する骨・靭帯・筋と関連疾患(その4)						
第10週	肘関節を構成する骨・靭帯・筋と関連疾患(その5)						
第11週	手関節及び手指を構成する骨・靭帯と関連疾患(その1)						
第12週	手関節及び手指を構成する骨・靭帯と関連疾患(その2)						
第13週	手関節及び手指を構成する骨・靭帯と関連疾患(その3)						
第14週	復習練習問題						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	3～4週間おきに、小テストを実行し、自宅学習する習慣を身につける。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	柔道整復学Ⅲ	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担 当	平山 依里	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	手関節・手指ならび下肢の骨損傷・軟部組織損傷に関連する骨・靭帯・筋について理解し、記述できる			評価方法			
授業概要	手関節・手指ならび下肢の骨損傷・軟部組織損傷に関連する骨・靭帯・筋について学習する。			期末試験 90% 小テスト 10% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	手関節・手指に関わる筋(その1)						
第2週	手関節・手指に関わる筋(その2)						
第3週	手関節・手指に関わる筋(その3)						
第4週	手関節・手指に関わる筋(その4)						
第5週	骨盤・股関節を構成する骨・靭帯・筋と関連する疾患(その1)						
第6週	骨盤・股関節を構成する骨・靭帯・筋と関連する疾患(その2)						
第7週	骨盤・股関節を構成する骨・靭帯・筋と関連する疾患(その3)						
第8週	骨盤・股関節を構成する骨・靭帯・筋と関連する疾患(その4)						
第9週	膝関節を構成する骨・靭帯・筋と関連する疾患(その1)						
第10週	膝関節を構成する骨・靭帯・筋と関連する疾患(その2)						
第11週	膝関節を構成する骨・靭帯・筋と関連する疾患(その3)						
第12週	膝関節を構成する骨・靭帯・筋と関連する疾患(その4)						
第13週	膝関節を構成する骨・靭帯・筋と関連する疾患(その5)						
第14週	練習問題						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	3～4週間おきに、小テストを実行し、自宅学習する習慣を身につける。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	柔道整復学Ⅲ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	平山 依里	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	下肢の骨損傷・軟部組織損傷ならび体幹損傷に関連する骨・靭帯・筋について理解し、記述できる			評価方法			
授業概要	下肢の骨損傷・軟部組織損傷ならび体幹損傷に関連する骨・靭帯・筋について学習する。			期末試験 90% 小テスト 10% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	足関節および足部を構成する骨・靭帯・筋と関連する疾患(その1)						
第2週	足関節および足部を構成する骨・靭帯・筋と関連する疾患(その2)						
第3週	足関節および足部を構成する骨・靭帯・筋と関連する疾患(その3)						
第4週	足関節および足部を構成する骨・靭帯・筋と関連する疾患(その4)						
第5週	足関節および足部を構成する骨・靭帯・筋と関連する疾患(その5)						
第6週	足関節および足部を構成する骨・靭帯・筋と関連する疾患(その6)						
第7週	足関節および足部を構成する骨・靭帯・筋と関連する疾患(その7)						
第8週	胸郭に関連する諸組織(その1)						
第9週	胸郭に関連する諸組織(その2)						
第10週	脊柱に関連する諸組織(その1)						
第11週	脊柱に関連する諸組織(その2)						
第12週	脊柱に関連する諸組織(その3)						
第13週	脊柱に関連する諸組織(その4)						
第14週	練習問題						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	3～4週間おきに、小テストを実行し、自宅学習する習慣を身につける。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	柔道整復実技 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整骨院を経営し施術業務従事中	担当	石橋 徹	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	包帯法の理論が理解できる。基本包帯法を巻くことができる。肩部・肘部・前腕部・手関節部・手指部の基本包帯を巻くことができる。冠名包帯法をまくことができる。それぞれの包帯法のポイントを記述できる。			評価方法			
授業概要	柔道整復師の基本である包帯法を学ぶ。			実技試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	包帯固定学	使用器材	包帯、ギプス包帯、キャスト材等				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	包帯の目的、種類、材料等の説明						
第2週	基本包帯法⇒環行帯、螺旋帯、蛇行帯、折転帯、亀甲帯、麦穂帯						
第3週	基本包帯法実習						
第4週	基本包帯法実習						
第5週	肩部の麦穂帯(上行、下行)説明と実習						
第6週	肘部の亀甲帯(集合、離開)説明と実習						
第7週	前腕部の包帯(螺旋+折転)説明と実習						
第8週	手関節の麦穂帯 説明と実習						
第9週	手指部の包帯 説明と実習						
第10週	冠名包帯法 1.デゾー包帯 説明と実習						
第11週	冠名包帯法 2.ヴェルボー包帯 説明と実習						
第12週	冠名包帯法 3.ジュール包帯 説明と実習						
第13週	前期総まとめ実習						
第14週	前期総まとめ実習						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	次の授業までに前回の包帯法が出来ているよう実習室で互いに日々練習すること。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	柔道整復実技 I	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験	整骨院を経営し施術業務従事中	担当	石橋 徹	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	頭部・顔面部の包帯を巻くことができる。三角巾の目的と提肘ができる。厚紙副子とスタレ副子の目的の理解と制作ができる。股関節・大腿部・膝関節・下腿部・足関節・足趾部・胸背部それぞれの包帯を巻くことができる。各部固定時の注意点とポイントを記述できる。			評価方法			
授業概要	柔道整復師の独自の固定法を学ぶ。			実技試験 50% 筆記試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	包帯固定学	使用器材	包帯、ギプス包帯、キャスト材等				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	頭部、顔面部の包帯、榎頭帯 説明と実習						
第2週	単頭帯、ヒポクラテス幅子帯、投石帯 説明と実習						
第3週	三角巾による堤肘 説明と実習						
第4週	厚紙副子とスタレ副子 説明と実習						
第5週	厚紙副子とスタレ副子 説明と実習						
第6週	股関節部の麦穂帯(上行、下行)説明と実習						
第7週	大腿部の包帯(螺旋帯、折転帯)説明と実習						
第8週	膝関節部の亀甲帯(集合と離開)説明と実習						
第9週	下腿部の包帯(麦穂帯と亀甲帯)説明と実習						
第10週	足関節部の包帯(麦穂帯と三節帯)説明と実習						
第11週	足趾部の包帯 説明と実習						
第12週	胸部、背部の包帯(胸十字帯、背十字帯、胸背十字帯)説明と実習						
第13週	中期総まとめ実習						
第14週	中期総まとめ実習						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	次の授業までに前回の包帯法が出来ているよう実習室で互いに日々練習すること。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	柔道整復実技 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整骨院を経営し施術業務従事中	担当	石橋 徹	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	その他の包帯法を巻くことが出来る。晒による固定が出来る。 金属副子・ギブス・キャスト材などによる固定ができる。それぞれの固定法のポイントを記述できる。			評価方法			
授業概要	柔道整復師の独自の固定並びギブス・キャスト材・テープによる固定法を学ぶ。			実技試験 50% 筆記試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	包帯固定学	使用器材	包帯、ギブス包帯、キャスト材等				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	その他の包帯(合わせる包帯、多頭帯) 説明と実習						
第2週	晒しによる固定 説明と実習						
第3週	金属副子・アルミ副子の固定 説明と実習						
第4週	ギブス包帯による固定 説明と実習						
第5週	ギブス包帯による固定 説明と実習						
第6週	キャスト材による固定 説明と実習						
第7週	キャスト材による固定 説明と実習						
第8週	テーピング固定 説明と実習						
第9週	テーピング固定 説明と実習						
第10週	テーピング固定 説明と実習						
第11週	テーピング固定 説明と実習						
第12週	テーピング固定 説明と実習						
第13週	後期総まとめ実習						
第14週	後期総まとめ実習						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	次の授業までに前回の包帯法が出来ているよう実習室で互いに日々練習すること。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	情報技術	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	西釜 涼子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1.情報機器を効果的に活用するために必要な知識と技能を習得する。 2.社会の中で、情報技術が果たしている役割について理解する。 3.情報社会に主体的に対応できる能力と態度を身に付ける。			評価方法			
授業概要	現代社会における情報技術の役割について理解し、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基礎的な技術を学ぶ。			平常点 50% 期末試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	30時間でマスター Word & Excel	使用器材	デスクトップ型パソコン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	Wordを起動。マウスの操作やひらがな、かたかな、漢字、アルファベットの文字入力について学ぶ。						
第2週	Wordを起動。文章の入力の練習をする。Wordのページ設定について学ぶ。						
第3週	Wordを起動。文章の入力の練習をする。複写・削除・移動について学ぶ。						
第4週	Wordを起動。文章の入力の練習をする。編集機能について学ぶ。基礎的な文章の作成をする。						
第5週	Wordを起動。文章の入力の練習をする。表を作成編集する方法を学ぶ。表付き文章の作成をする。						
第6週	Wordを起動。文章の入力の練習をする。画像・テキストボックスの挿入について学び、文章の作成をする。						
第7週	PowerPointを起動。スライドのレイアウト、文字入力、図形画像の挿入について学ぶ。						
第8週	PowerPointを起動。アニメーションの付け方を学ぶ。プレゼンテーションの方法を学ぶ。自由課題により、プレゼンテーションの作成をする。						
第9週	PowerPointを起動。プレゼンテーションの作成、発表をする。						
第10週	Excelを起動。表の作成や算術演算子による計算方法を学ぶ。						
第11週	Excelを起動。表の編集について学ぶ。グラフを作成する。						
第12週	Excelを起動。最大値、最小値、数値の個数、順位づけなどの関数について学ぶ。						
第13週	Excelを起動。判定、条件による集計、表の検索などの関数について学ぶ。						
第14週	Word、PowerPoint、Excelについて総復習をする。						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	私たちの生活の中で、情報技術は必要不可欠なものとなりました。授業では基礎的な技術を学んでいきます。しっかりと身に付けていきましょう。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	栄養学	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	井上 啓子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 体と栄養素の関わりを知り、食と健康には密接な関係があることを認識する。 2 六つの基礎食品群とその主な栄養素を知り、日々の摂取食品の過不足をチェックできる。 3 栄養素の体内での生理作用、流れ（吸収や排泄）などの知識を得る。 4 患者等への論理的説明ができるよう、口頭や文章で説明できる訓練をする。			評価方法			
授業概要	食行動は万人に共通で、かつ疾病や怪我などの予後も栄養状態が影響するので、健康を維持するための栄養の知識を学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	配布プリント	使用器材	パソコン、プロジェクター				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	1 体と栄養素の関わり 2 五大栄養素の概略の生理作用とそれらを含む六つの基礎食品						
第2週	3 三大栄養素の分類(炭水化物、脂質、たんぱく質) i) 糖質 : 単糖類、二糖類、多糖類						
第3週	ii) 脂質 : 中性脂質、脂肪酸、必須脂肪酸(n-3系 n-6系脂肪酸) リン脂質、コレステロール						
第4週	iii) たんぱく質 : アミノ酸、必須アミノ酸、アミノ酸価						
第5週	iv) 食物繊維 : 腸内細菌との関係 4 三大栄養素の消化、吸収 : 消化の意義、消化酵素、消化管						
第6週	消化のされ方 消化管ホルモン 吸収のされ方など						
第7週	5 三大栄養素のエネルギー代謝とその他の生理作用 i) : 糖質のエネルギー代謝の経路(解糖系、TCA回路、電子伝達系)						
第8週	ii) : i)への脂肪、たんぱく質の合流(B酸化、脱アミノ反応、尿素回路) iii) : 血糖調節、必須脂肪酸からの生理活性物資の作用)						
第9週	たんぱく質合成、糖新生 iv) : 基礎代謝、活動代謝、食事誘導産熱、BMI、標準体重など						
第10週	6 ビタミン、ミネラルの生理作用と欠乏(過剰)症 i) : 脂溶性ビタミン : VA、VD、VE、VK						
第11週	ii) : 水溶性ビタミン : VB群、VC iii) : マクロミネラル : Na、K、Ca、P、Mgなど						
第12週	iv) : ミクロミネラル : Fe、Znなど 7 水 : 栄養的意義、体内量、排泄と供給、脱水症など						
第13週	8 アスリートと栄養 糖質とたんぱく質						
第14週	9 まとめ、復習						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1 復習中心でよいので、学習した事項を筋立った文章あるいは口頭で説明してみしてほしい。 2 食べた食事の食品を六つの食品群にあてはめ、過不足群はないか、日々意識する習慣をつけてほしい。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	生理学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	脇田 真仁	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	・講義内容(生理学の基礎、血液の生理学、体液の生理学、循環の生理学、呼吸の生理学)の理解。 ・講義毎の小テストをすべて解けるようにし、着実に国家試験に備える。			評価方法			
授業概要	人体の生理機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを理解し、柔道整復師として必要な生理学の基礎知識(生理学の基礎、血液の生理学、体液の生理学、循環の生理学、呼吸の生理学)の修得を目指す。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	生理学	使用器材	パソコン、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	第1章 生理学の基礎 A:生理学とは B:人体を構成する要素 C:ホメオスタシス D:体の化学的構成						
第2週	E:細胞の機能的構造						
第3週	F:拡散、浸透、ろ過 G:受動輸送と能動輸送 H:エンドサイトーシスとエクソサイトーシス						
第4週	第2章 血液の生理学 A:血液の役割 B:血液の組成						
第5週	C:免疫機能 D:血液型 E:血液凝固						
第6週	第12章 体液の生理学 A:体液区分と水バランス B:体液のイオン組成 C:体液の恒常性 1、2)						
第7週	C:体液の恒常性維持のしくみ 3、4						
第8週	第3章 循環の生理学 A:心臓の機能 B:血管系						
第9週	C:リンパ管系 D:循環の調節						
第10週	E:局所循環 F:脳脊髄液循環						
第11週	第2章、第12章、第3章のまとめ						
第12週	第4章 呼吸の生理学 A:呼吸器の機能的構造 B:換気						
第13週	C:ガス交換 D:酸素の運搬 E:二酸化炭素の運搬						
第14週	F:呼吸調節のしくみ G:呼吸の異常 H:特殊環境下の呼吸 I:人口呼吸						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	授業を受ける前の予習として、教科書を熟読しておく。 毎回の講義で配布する小テストの問題はすべて解けるように復習する。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	生理学 I	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	脇田 真仁	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 講義内容（消化と吸収、栄養と代謝、体温とその調節、尿の生成と排泄、内分泌系の機能、生殖）の理解。 講義毎の小テストをすべて解けるようにし、着実に国家試験に備える。 			評価方法			
授業概要	人体の生理機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを理解し、柔道整復師として必要な生理学の基礎知識（消化と吸収、栄養と代謝、体温とその調節、尿の生成と排泄、内分泌系の機能、生殖）の修得を目指す。			期末試験 100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	生理学	使用器材	パソコン、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第5章 消化と吸収 A:消化器系の働き B:消化管の運動とその調節						
第2週	C:消化液の分泌機序 D:消化 E:吸収						
第3週	F:消化管ホルモン G:肝臓と胆道系						
第4週	第6章 栄養と代謝 A:代謝 B:中間代謝1						
第5週	B:中間代謝2 C:エネルギー代謝						
第6週	第7章 体温とその調節 A:体温 B:体温の生理的変動 C:体内における熱の産生 D:熱放射1						
第7週	D:熱放射2 E:体温の調節 F:うつ熱と発熱 G:気候馴化						
第8週	第8章 尿の生成と排泄 A:腎の構造と機能 B:糸球体ろ過 C:尿細管における再吸収1						
第9週	C:尿細管における再吸収2 D:尿細管における分泌 E:尿の成分 F:排尿						
第10週	第9章 内分泌系の機能 A:内分泌線 B:ホルモンの一般的特質 C:ホルモンの種類と作用 D:視床下部のホルモン E:下垂体ホルモン						
第11週	F:甲状腺のホルモン G:副腎皮質のホルモン H:副腎髄質のホルモン						
第12週	I:膵臓のホルモン J:精巣のホルモン K:卵巣のホルモン						
第13週	第10章 生殖 A:性染色体とその異常 B:性分化 C:男性生殖器系の構成 D:精子形成 E:勃起と射精						
第14週	F:女性生殖器の構成 G:卵巣周期 H:月経周期 I:卵巣周期中のゴナドトロピンと卵巣ホルモンの分泌 J:妊娠と分娩 K:乳汁分泌						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	授業を受ける前の予習として、教科書を熟読しておく。 毎回の講義で配布する小テストの問題はすべて解けるように復習する。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	生理学 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	脇田 真仁	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	・講義内容（骨の生理学、神経の基本的機能、神経系の機能、筋肉の機能、感覚の生理学）の理解。 ・講義毎の小テストをすべて解けるようにし、着実に国家試験に備える。			評価方法			
授業概要	正常な人体の生理機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを理解し、柔道整復師として必要な生理学の基礎知識（骨の生理学、神経の基本的機能、神経系の機能、筋肉の機能、感覚の生理学）の修得を目指す。			期末試験 100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	生理学	使用器材	パソコン、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第11章 骨の生理学 A:骨の構造 B:骨の形成と成長 C:再吸収と再形成 D:カルシウム代謝 E:ビタミンD F:上皮小体ホルモン G:カルシトニン H:骨の病気						
第2週	第13章 神経の基本的機能 A:神経細胞の形態 B:静止膜電位 C:活動電位 D:閾刺激 E:全か無かの法則 F:不応期						
第3週	G:イオンチャネル H:興奮の伝導 I:複合活動電位 J:興奮の伝達						
第4週	第14章 神経系の機能 A:神経系の成り立ち						
第5週	B:内臓機能の調節 C:内臓機能の視床下部による調節						
第6週	D:姿勢と運動の調節 (1.運動の調節のしくみ 2.骨格筋の感覚器 3. いろいろな耐性反射と中枢 4. 脊髄反射と反射の協調 5.脳幹を中枢とする運動機能)						
第7週	D:姿勢と運動の調節 (6.小脳と大脳基底核の機能 7.新皮質運動野の機能)						
第8週	E:高次機能						
第9週	第15章 筋肉の機能 A:筋肉の種類と特徴 B:骨格筋の構造						
第10週	C:筋収縮の仕組み D:筋細胞膜を興奮させるしくみ E:骨格筋の収縮の仕方						
第11週	F:筋肉の長さや張力との関係 G:筋収縮のエネルギー H:筋の熱発生 I:筋電図 J:平滑筋 K:心筋						
第12週	第16章 感覚の生理学 A:感覚の種類 B:感覚の一般的性質 C:体性感覚						
第13週	D:内臓感覚 E:嗅覚と味覚 F:聴覚						
第14週	G:視覚 H:前庭感覚						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	授業を受ける前の予習として、教科書を熟読しておく。 毎回の講義で配布する小テストの問題はすべて解けるように復習する。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	医学英語	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	春田 清美	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	外国人雇用の増大で外国籍の患者さんを受け入れる際に求められる、基本的な医療英語を理解し、修得することを目標とする。			評価方法			
				期末試験 60%			
授業概要	今では医療関係の分野では英語は不可欠な存在であり、柔道整復師も例外ではない。そのため、基礎的医学用語を理解する。			小テスト30% 授業態度10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	Essential English for Nurses他	使用器材	白板等				
週	授 業 項 目 内 容						実施結果
第1週	Lesson1&2 初診の挨拶 痛む 初診時の挨拶と部位の具体的な痛みの表現 身体部位 (P2~13)						
第2週	Lesson3&4 痛みの種類と程度 経過 個人的な痛みの程度の表現(ズキズキ、痺れる、徐々に等) (P14~25)						
第3週	Lesson5&6 基本的な肢位の指示 応用的な肢位の指示 患者の位置を微調整する、真似してもらう表現 (P26~37)						
第4週	Lesson6 病院にまつわるボキャボラリー 診療科名、職種、場所の英語 (P38)						
第5週	Review&Mid-term Exam Lesson1~6までの復習 中間テスト 練習問題を復習した後中間テストを実施する						
第6週	Lesson7 バイタルサインの確認 体調を聞く表現とバイタルサインの単語 (P40~45)						
第7週	Lesson8&9 自動可動域の測定 他動可動域の測定 最大可動域測定、原因を聞く表現 角度結果を伝える表現 (P46~57)						
第8週	Lesson10&11 体幹の可動域の測定 頸部の動可動域の測定 前後側、側面、首の前後屈、回旋の表現 手足の部位 (P58~69)						
第9週	Lesson12&13 筋力の測定 触覚検査 抵抗をかける時の表現 感覚を尋ねる表現 (P70~81)						
第10週	Lesson14&15 バランス検査 歩行評価 片脚立位、不安定、転ぶ、さまざまな歩行の表現 (P82~93)						
第11週	Lesson16 ホームエクササイズの指導 運動回数や頻度の表現 (P94~99)						
第12週	Lesson18 移乗動作の練習 損傷総論(1) 移乗時の動作と介助の表現 (P108~113)						
第13週	Frozen Shoulder(五十肩) (P17~18) 損傷総論(2)						
第14週	Hernia of the Cervical Intervertebral Disc(頸椎椎間板ヘルニア) (P18~20) Review(復習)						
第15週	Examination(試験)、解説						
授業外 学習指示等	自宅学習では、30分程度の復習を実施し、授業においては、最大限の集中力で臨んでもらいたい。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	表現法	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	石松 豊子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 国語領域における言語について、基本的な知識を深めて確立する。 2 個人と集団、社会において相互の信頼関係を構築できるように、コミュニケーションを確立する。			評価方法			
授業概要	国語領域における言語に関する基本的な知識を深め、理解をして表現する能力と態度を養う方法を教授する。特に、正しく円滑にコミュニケーションを行うための言語感覚を豊かにさせる。			期末試験 60% 小テスト 30% 平常点 10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	言葉づかいの教科書	使用器材	白板				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	表現法について 第1章 表現力を磨く3原則 その1、その2						
第2週	第1章 表現力を磨く3原則 その3、演習						
第3週	第2章 大人の会話 その1、その2、その3						
第4週	第2章 大人の会話 その4、その5、その6						
第5週	第2章 大人の会話 その7、その8、その9、その10						
第6週	第3章 言葉の響き その1、その2、その3						
第7週	第3章 言葉の響き その4、その5、その6						
第8週	第3章 言葉の響き その7、その8、その9、その10						
第9週	第4章 文章表現 その1、その2、その3						
第10週	第4章 文章表現 その4、その5、その6						
第11週	第4章 文章表現 その7、その8						
第12週	演習 1 敬語表現						
第13週	演習 2 メール、手紙の書き方						
第14週	演習 3 ビジネス文書の書き方						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	<ul style="list-style-type: none"> 講義に臨む前に、教科書を読み、疑問点を書き出しておくこと。 学習プリント・課題プリントなどは、計画を立てて取り組み、提出日を厳守すること。 						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	心理学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院の心療内科で臨床心理士として勤務有り	担当	北村 紘美	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 認知、感情、学習における心の働きを理解し、その仕組みや代表的理論について概説できる。 2 動機付けやストレス、社会心理を理解し、適応に関わる内外からの心理的要素を考察できる。 3 心理発達について理解し、各段階における特徴の概要を述べるができる。 4 心理学的介入の理解により、身体のみでなく人格や心理を含めた全人的な見方や考え方ができるようになる。			評価方法			
授業概要	心理学における人間理解や行動科学などについて学ぶことで、将来対人援助職として他者に関わる際の一助となることを目的とする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー(北大路書房)	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	『心理学について』心理学にまつわる一般的なイメージや疑問について解説。心理学とはどんな学問か、医療と心理学との関わりについて学ぶ。(教科書P2～11)						
第2週	『感覚と知覚』人間がどのような心理的機能を通して外界を感じ、知覚し、認知しているかについて学ぶ。(教科書P44～55)						
第3週	『感情』感情とはどのようなものか。感情の機能と認知や情報処理への影響、感情の障害について学ぶ。(教科書P56～65)						
第4週	『記憶』記憶の種類と働き。各種記憶の特徴、記憶の障害について学ぶ。(教科書P34～43)						
第5週	『学習』学習とは何か。学習における条件付けとはどのようなものか、様々な学習の特徴と応用について学ぶ。(教科書P22～33)						
第6週	『欲求と動機付け』人間の行動における欲求と動機付けの働きや種類、仕組みについて学ぶ。(教科書P66～75)						
第7週	『社会心理学』私たちはどのように社会を認知するのか。自己と他者とは。個人と集団の心理的要素や影響について学ぶ。(教科書P76～85)						
第8週	『ストレスとコーピング』ストレスとはどのようなものなのか。ストレスの人への影響。ストレスの緩和と管理について学ぶ。(教科書P86～96)						
第9週	『パーソナリティ①』パーソナリティとは何か。代表的な人格理論や人格がどのように形成されるのかについて学ぶ。(教科書P98～101)						
第10週	『パーソナリティ②』様々なパーソナリティの捉え方。心理テストなど人格をどう測定するかについて学ぶ。(教科書P102～107)						
第11週	『心の発達と心の危機①』心はどのように発達するのか。発達段階や発達課題という考え方について学ぶ。(教科書P118～123)						
第12週	『心の発達と心の危機②』青年期・中年期・老年期における心理発達とその課題とはどのようなものなのかを学ぶ。(教科書P124～127)						
第13週	『心理学的介入①』精神分析や行動療法など代表的な心理的介入とその考え方や人間理解の特徴などについて学ぶ。(教科書P128～131)						
第14週	『心理学的介入②』人間中心主義やカウンセリングについて学び、心理面をも含めた患者対応について考える。(教科書P132～138)						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を確認し、疑問点や分からない所があれば講義中に質問できるように準備しておくこと。 2 復習は、その授業の重要事項について次回講義までに振り返ること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	衛生学・公衆衛生学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	手塚 誠	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	感染症対策など身近なところの公衆衛生学を学び、日常の生活でどのような役割を果たしているかを知るようにする。			評価方法			
授業概要	人々の健康問題とそれを取りまく環境因子との相互関係に焦点を当て、地域住民の疾病予防、保健さらに進んで健康増進に寄与できるよう、公衆衛生活動の基礎的な知識とその考え方について学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	衛生学・公衆衛生学	使用器材	白板、パワーポイント、映写装置				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	1.健康の概念1						
第2週	1.健康の概念2						
第3週	2.人口統計1						
第4週	2.人口統計2						
第5週	3.疾病予防と健康管理1						
第6週	3.疾病予防と健康管理2						
第7週	4.感染症対策1						
第8週	4.感染症対策2						
第9週	5.消毒1						
第10週	5.消毒2						
第11週	6.環境保健1						
第12週	6.環境保健2						
第13週	7.母子保健1						
第14週	7.母子保健2						
第15週	期末試験(1~7)、解説						
授業外 学習指示等	日常の生活でも役に立つことが多いので、日常の生活と関連づけて学んでいくようにして下さい。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	衛生学・公衆衛生学	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	手塚 誠	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保健のしくみを理解できるようになる。 ・各種の保健の対象となる人々とその保険の適用範囲について理解できるようになる。 			評価方法			
授業概要	<p>人々の健康問題とそれを取りまく環境因子との相互関係に焦点を当て、地域住民の疾病予防、保健さらに進んで健康増進に寄与できるよう、公衆衛生活動の基礎的な知識とその考え方について学ぶ。</p>			期末試験 100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	衛生学・公衆衛生学	使用器材	白板、パワーポイント、映写装置				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	8.学校保健1						
第2週	8.学校保健2						
第3週	9.産業保健1						
第4週	9.産業保健2						
第5週	10.成人・老人保健1						
第6週	10.成人・老人保健2						
第7週	11.精神保健1						
第8週	11.精神保健2						
第9週	12.生活環境・食品衛生活動1						
第10週	12.生活環境・食品衛生活動2						
第11週	13.地域保健と国際保健1						
第12週	13.地域保健と国際保健2						
第13週	14.衛生行政と保健医療の制度1						
第14週	14.衛生行政と保健医療の制度2						
第15週	期末試験(1～14)、解説						
授業外 学習指示等	その日のうちに復習をしっかりと行うようにして下さい。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	衛生学・公衆衛生学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	手塚 誠	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・総合演習を行うことで自分の理解度を確認する。 ・理解度が不足している場合は復習を行い、十分に理解できている場合は、さらに知識をつけるように努力する。 			評価方法			
授業概要	人々の健康問題とそれを取りまく環境因子との相互関係に焦点を当て、地域住民の疾病予防、保健さらに進んで健康増進に寄与できるよう、公衆衛生活動の基礎的な知識とその考え方について学ぶ。			期末試験 100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	衛生学・公衆衛生学	使用器材	白板、パワーポイント、映写装置				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	15.疫学1						
第2週	15.疫学2						
第3週	15.疫学3						
第4週	1.健康の概念～7.母子保健 総合演習1						
第5週	1.健康の概念～7.母子保健 総合演習2						
第6週	1.健康の概念～7.母子保健 総合演習3						
第7週	1.健康の概念～7.母子保健 総合演習4						
第8週	1.健康の概念～7.母子保健 総合演習5						
第9週	8.学校保健～15.疫学 総合演習1						
第10週	8.学校保健～15.疫学 総合演習2						
第11週	8.学校保健～15.疫学 総合演習3						
第12週	8.学校保健～15.疫学 総合演習4						
第13週	8.学校保健～15.疫学 総合演習5						
第14週	8.学校保健～15.疫学 総合演習6						
第15週	期末試験(1～15)、解説						
授業外学習指示等	総合演習の時は、授業中のノートや資料などを参考にして確認を行い、その日のうちに復習を行うようにして下さい。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	解剖学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	手塚 誠	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	人体の基本的な構造について理解する。			評価方法			
授業概要	人体の構造と機能を学び、柔道整復師になるための基礎学力をつけることを目的とする。			定期試験 50% 中間試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学、図解解剖学辞典、配布資料	使用器材	OHP、白板				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	解剖学総論①						
第2週	解剖学総論②						
第3週	骨格系① 総論						
第4週	骨格系② 脊柱						
第5週	骨格系③ 胸郭						
第6週	骨格系④ 上肢						
第7週	骨格系⑤ 下肢						
第8週	骨格系⑥ 頭蓋						
第9週	筋系① 総論						
第10週	筋系② 頭部・頸部						
第11週	筋系③ 胸部・腹部						
第12週	筋系④ 背部						
第13週	筋系⑤ 上肢						
第14週	筋系⑥ 下肢						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	解剖はイメージも重要です。初めのうちは、絵や写真など多く載った資料などを見て、イメージが湧くようにして下						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	解剖学 I	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	手塚 誠	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	人体の各部分について細かく学び理解できるようになる。			評価方法			
授業概要	人体の構造と機能を学び、柔道整復師になるための基礎学力をつけることを目的とする。			定期試験 50% 中間試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学、図解解剖学辞典、配布資料	使用器材	OHP、白板				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	脈管系① 総論						
第2週	脈管系② 心臓						
第3週	脈管系③ 動脈系(1)						
第4週	脈管系④ 動脈系(2)						
第5週	脈管系⑤ 静脈系(1)						
第6週	脈管系⑥ 静脈系(2)						
第7週	脈管系⑦ リンパ系						
第8週	内臓系① 総論・消化器系						
第9週	内臓系② 消化器系						
第10週	内臓系③ 呼吸器系						
第11週	内臓系④ 泌尿器系(1)						
第12週	内臓系⑤ 泌尿器系(2)						
第13週	内臓系⑥ 男性生殖器系						
第14週	内臓系⑦ 女性生殖器系						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	大まかなイメージができるようになったら、それぞれの働きなどについて覚えるようにして下さい。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）1年	科目名	解剖学 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	手塚 誠	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	人体の構造と機能を理解し、イメージができるようにする。			評価方法			
授業概要	人体の構造と機能を学び、柔道整復師になるための基礎学力をつけることを目的とする。			定期試験 50% 中間試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学、図解解剖学辞典、配布資料	使用器材	OHP、白板				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	内分泌系①（総論）						
第2週	内分泌系②（各論・働き等）						
第3週	内分泌系③（各器官）						
第4週	神経系①（総論）						
第5週	神経系②（脳）						
第6週	神経系③（脊髄）						
第7週	神経系④ 末梢神経						
第8週	感覚器① 外皮・視覚器						
第9週	感覚器② 聴覚器・平衡感覚器						
第10週	感覚器③ 味覚器・臭覚器						
第11週	体表解剖①（総論・骨格系・筋系）						
第12週	体表解剖②（脈管系・神経系）						
第13週	体表解剖③（目等・外皮・生体計測）						
第14週	映像解剖						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	前期・中期で学んだことを自分の中で一つにまとめて、総合的に理解、イメージができるようになって下さい。						